学校検尿異常者の最終診断（小田原市15年間の追跡から）

小児腎疾患の長期管理における運動・食事・社会心理に関する研究
長期管理に由来する社会心理問題について

竹中　道子[1)]，藤原　芳人[2)]，酒井　糾[3)]，石井　敏和[4)]

学校検尿で発見された尿異常の最終診断を，小田原市の児童・生徒について３次，４次精密検診と卒後の追跡調査によりまとめた．腎疾患率は0.1%，透析例は0.005%であるが，透析予備群もある．医療・管理離脱例も腎疾患と診断されたうちの30%におよんでいる．

学校検尿　腎疾患管理　卒後検診

学校検尿に始まる腎疾患管理は，年度毎の３次暫定診断はつくが，中学２～３年生は経過観察中に卒業する例も多く，最終診断の集積が困難である．

小田原市の場合は，昭和47年より始めた腎疾患管理委員会方式による診断・管理と，52年より行っている卒業後の検診による追跡と指導により，必要な生徒は４次精密検診を受ける．その結果，３次検診を受けたほとんど全ての児童・生徒に確定診断がついている．慢性腎炎の診断がついても，治療を離脱できた例もあれば，透析に移行した例もある．今年度は３次，４次精密検診と卒後検診を含めた精密検診による確定診断をまとめた．

対象：

昭和47年から62年までの15年間に小田原市の小・中学生で学校検尿をうけ，３次検診の対象となった者．（表　1）

検診システム：

１次検尿は蛋白・潜血２法で，２次検尿は蛋白・潜血・沈渣で行い，３次検診の対象者は蛋白（++）以上，潜血（++）以上，蛋白（＋）で沈渣異常，沈渣で円柱を多数認めるのいずれかとした．57年までは蛋白（＋）で潜血（＋）も対象とした．

３次精検及び卒後検診は問診，血圧，一般検診，尿検査，血液検査である．

検診の流れは63年度に報告した．

成績：

表　２に診断名と生徒数をまとめた．

急性腎炎で治癒した10例を除くと，腎疾患は71例で，受検者数は延べ 333,828名，実数は63,920名（１学年平均 2,780名として）と推測できる．管理中の生徒は１次検尿を受けないシステムになっているので，

１）東京都赤十字血液センター　　２）横浜市港湾病院小児科
３）北里大学腎センター　　４）小田原市医師会

表1　小田原市学校検尿の状況
（小・中学生）

年度	1次受検者	2次受検者	3次受検者	3次未受検者	腎疾患
47	14,254	443	42	8	7
48	14,430	312	43	0	7
49	12,848	451	31	0	3
50	12,322	543	39	0	1
51	23,390	744	30	0	2
52	24,073	722	42	6	0
53	24,631	552	26	3	0
54	25,268	404	27	3	1
55	25,696	582	28	0	1
56	25,924	469	20	3	1
57	26,446	676	39	0	3
58	26,109	535	32	1	2
59	25,854	597	34	0	0
60	25,536	579	36	1	2
61	25,047	532	25	0	0
計	333,828	8,141	494	25	30

表2　3次受検者の最終診断
（494名中異常なしを除く）

急性腎炎	10
遷延性腎炎	5
慢性腎炎	
MPGN	4
IgA腎症	6
急速進行性腎炎	1
慢性腎炎	28
紫斑病性腎炎	11
腎炎	4
ネフローゼ	4
尿路感染症	28
水腎症	8
尿路結石	1
尿路奇形	2
膀胱尿管逆流	8
蛋白尿　1年内消失	10
卒検へ	16
血尿　1年内消失	70
3年内消失	42
5年内消失	15
卒検へ	66
体位性蛋白尿	38
要精密検査	10
異常なし	25
転校，その他	10

腎疾患率は 0.1%と推定される．

血液透析移行例は4例で内訳は慢性腎炎2例，遺伝性腎炎1例（兄も透析中），小学校1年時にすでに神経因性膀胱から水腎症になっていた1例である．このほかに透析予備群ともいうべき状態のものが数例ある．

逆に，医療，管理から離脱した例は23例，内訳はminimal change のネフローゼ2例，遷延性腎炎2例，慢性腎炎3例，IgA腎症3例，巣状腎硬化症1例，MPGN 1例，紫斑病性腎炎5例，喘息にともなう血尿1例，水腎症3例，逆流を伴う萎縮腎2例　である．

蛋白尿は1～1.5 年のあいだに80%が消失し，それ以降蛋白尿が続く例は精密検査で診断が確定している．血尿は50%が1年以内に消え，40%も3～5年内に消える．再度血尿のでる例もあるし，10%はかなり長く残るが，3年以上続く例は精検が必要である．蛋白尿，血尿単独からも少数の腎疾患が発見されている．

腎疾患例は，疾患管理を受けているためか卒後検診の受診率が低い．

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

学校検尿で発見された尿異常の最終診断を,小田原市の児童・生徒について 3 次,4 次精密検診と卒後の追跡調査によりまとめた.腎疾患率は 0.1%,透析例は 0.005%であるが,透析予備群もある.医療・管理離脱例も腎疾患と診断されたうちの 30%におよんでいる.